科目ナンバリング							
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー ：アジアの文字論 ILAS Seminar :Writing Systems in Asia			担当者所属 職名・氏名	人文科学研究所 教授　　池田　巧		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2024・前期	受講定員 (1回生定員)	10 (10) 人	配当学年	1回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	人文科学研究所本館4階中国社会共同研究室(401) (本部構内)			使用言語	日本語
キーワード	表記システム / 漢字 / 漢字系文字 / インド系文字 / 解読						

[授業の概要・目的]

日本語は多数の文字種を混在利用する表記法をとる点で世界でもユニークな言語として知られている。文化の基礎は言語／文字であり，IT 社会になってもそれは変わらない。現代社会のあらゆる場面で文字の機械利用が進み，異なる文化圏への侵入と応用による軋轢を生むなど，文明論の視点から文字に対する新たな認識と分析が必要になってきている。本セミナーでは字体の変遷などを扱う伝統的な「文字学」ではなく，文字の文化的機能について考察する「文字論」を展開する。文字が言語のいかなる側面を表記しているかについて基本的な理解を深め，漢字文化圏におけるさまざまな「越境」にかかわる文化現象を取り上げて，文字のさまざまな機能的側面を読み解いていく。あわせてアジアの多民族／多言語／多文字状況についても，社会言語学的視点から考察してみたい。方法論と原理を中心に考察していくので，情報処理や外国語についての専門的な知識を前提としない。

[到達目標]

中国を中心とした漢字文化圏およびアジアの諸言語の表記体系について、必要な情報を入手するための基礎的な知識を習得する。

[授業計画と内容]

取り上げる予定のトピックは以下のとおり。テーマによっては１回の授業で複数の話題を扱う回、逆にひとつの話題で複数回の授業にわたる場合もある。内容は順不同。

1.文字論とは：序にかえて
2.文字文化圏
3.文字の理論
4.漢字の構成：六書（りくしょ）
5.アジアの文字概観
6.文字の歴史と伝播
7.音声から書写へ
8.書写から印刷へ
9.日本語の表記法
10.文字とコンピュータ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価。授業内レポートを課す。

ILASセミナー ：アジアの文字論(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー　：アジアの文字論(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内で指示した文献情報を必ず自分で確認すること。

[その他（オフィスアワー等）]